

市外大学生が感じた矢田の魅力をまとめた冊子「ヤタのタネ」 — 田舎暮らしインターンシップ事業

この夏、市内矢田集落で田舎暮らしインターンをした大学生 3 人（県外 2 人、市外 1 人）が、集落の魅力をまとめた冊子「ヤタのタネ」を作成しました。

1 田舎暮らしインターンの目的

このインターンは、地域おこし協力隊募集中の矢田集落において、外部人材受け入れの効果を実感してもらい、受け入れ体制のさらなる醸成を図るために実施しました。



2 冊子の概要

3 人のインターン生が感じた集落の魅力を、今後、集落に興味を持っていただいた方に伝えるものとして、冊子「ヤタのタネ」を作成しました。

(1) インターン生が冊子に込めた思い

「お世話になった集落の皆さんの、話の“タネ”になったらいいな」「私たち 3 人が、矢田集落のこれからに向けてまかれた“タネ”のような存在になれたらいいな」といった集落の明日に向けた思いが込められています。

インターン生の感想は、「にいがたイナカレッジ」ホームページをご覧ください。

<https://inacollege.jp/voice/>



(2) 冊子の内容

集落の文化、暮らし、住民、この夏の思い出などが、ヨソモノ目線でまとめられた内容で構成しています。

3 今後の展開

「ヤタのタネ」は、首都圏での移住フェアや現地体験会などで、地域おこし協力隊になろうとする方に読んでいただき、集落の魅力を感じてもらうのに役立ちます。

また、住民が「外部人材が集落の人同士をつなぐきっかけになる」ということを知り、外部人材を受け入れることの効果を実感しました。この経験と今回の地域の盛り上がり、今後の地域おこし協力隊の募集や、その後の活動に生かしていきます。